

コミュニティ

community
The New Apostolic Church around the world



2022(令和4)年第1号



(nac.today)

聖餐の持つ四つの側面……………2
単なる「領収書」のようなものではない…3
血は誰のために流されたのか……………4

全部で20通りの聖餐メニュー……………5
弱い人こそ強い働きをするのである!…6
困難に対処するための支援……………8



日本新使徒教会

sacrament (37) :

聖餐の持つ四つの側面

各教派がそれぞれ独自で聖餐を執り行っている状態は、このまま続くのでしょうか。教派という柵を越えるのはまだ難しいものの、根本は本質的に共通しています。その共通する根本は、聖別の言葉に見られますし、新使徒教会教理要綱の中でも扱われています。



「これを食べ、飲みなさい。このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」これは、新使徒教会が聖餐を執り行う際に宣言する典礼文の最後の部分です。すでにこの典礼文の中に、新使徒教会教理要綱に書かれている（教理要綱 8.2.8～8.2.11）、聖餐の持つ四つの側面が示されています。

「私を記念して…」：記念の食事

聖餐は記念の食事です。神学者はこのイエス・キリストの言葉を、繰り返し（すなわち記念して）行うようにという指示としています。この文言は、四つある晩餐に関する聖書の記事のうち、二か所しかありません。しかし、こんにち聖餐の制度や制定について論じられるのは、この文言がきっかけとなっています。

ここで言う記念とはまず、イエス・キリストの死を教理要綱 8.2.8にあるように「いつの時代においても有効である無類の出来事」として記念することです。しかし、繰り返し記念して行うことは、「過去の記憶を思い起こすだけでなく、キリストの現代におけるご臨在とキリストの未来における御国への確信とを新たにすること」です。

「これを食べ、飲みなさい」：交わりの食事

聖餐は交わりの食事です。イエス様はよく、使徒たちとの食事を楽しまれました。死を目前にした時は、「心から」お望みでした。神学上、聖書ではこの交わりを、以下の三つの方法で解説しています。

神様との交わり：キリストは新しい契約の血に言及しておられます。これは、シナイ山で交わされた旧約が、イエス様が十字架上で犠牲の死を遂げられたことによって、取って代わられたことを意味しています。

教会としての交わり：「私たちが裂くパンは、キリストの体との交わりではありませんか。」とパウロは問いかけています。キリストの体とは、信徒の交わりを表しています。

人々の交わり：パウロは、コリントの会衆の不注意さを諷める際、「συνέρχομαι シネルコマイ」（一緒に来る；集まる）という言葉に触れています。パウロにとって、この言葉は、外部から集まることだけでなく、内部の結束でもあります。

「主が来られる時まで…」：希望の食事

聖餐は終末の食事です。教理要綱 8.2.11によれば、聖餐が天の婚宴と密接に関係しているため、聖餐は終末時代としての特徴を備えています。イエス様は、御国が完全な形で到来する時まで、「ぶどうの実から作ったものを飲むこと」を放棄しておられるからです。

これは、キリストの再臨によるキリストとの交わりの完成を願って、交わりの会衆が人生を歩んでいるということです。それまでの間、会衆は聖餐を通して、主との最も親密な交わりを体験するのです。

「…告げ知らせるのです」：告白の食事

聖餐は告白の食事です。「告白」（「καταγγέλλω カタンゲッロ」）は、静かに内面の中で思い起こすことに集中することではなく、声を出して宣言することです。そして、過去に宣言したことではなく、今現在において繰り返し宣言するのです。

主の死だけが具体的に語られていても、キリストの復活と再臨の告白も意味しています。「イエス・キリストの死と復活と再臨を告白する<告げ知らせる>ことは、キリスト教の信仰告白における基本の一つである」と教理要綱 8.2.9は強調しています。（2021年6月29日 nac.today より）

サクラメント (38) :

単なる「領収書」のようなものではない

新使徒教会は、聖餐についての理解において、こんにちにおいてもカトリック使徒教会によるものにかかなり近いものがあります。しかし、ここに行き着くまで長い道のりがありました。今回はその長い道のりのお話です。



食卓に集う者たちの交わり——信徒たちが祭壇の聖餐をどのように理解しているか、それが教会としての定義であることは言うまでもありません。少なくとも16世紀の宗教改革以来、このように定義されています。つまり、祭壇の聖餐とは食卓に集う者の交わりなのです。何はともあれ、「キリストの体と血は、パンとぶどう酒の中にどの程度まで存在しているのか」という問題は、昔も今も変わらず存在しています。

カトリック使徒教会は、かなり決定的な答えを出していました。19世紀の専門用語に精通している神学者がいたからです。一方、20世紀に発行された新使徒教会の文献では、めいめいの作者が新しい言葉遣いを巡って苦心していたようです。2012年に出版された「教理要綱」の編集過程で、急転直下、専門家レベルの用語に戻りました。

象徴か現実か？

「実在」は、前述の根本的な質問に対する一貫した答えです。カトリック使徒教会の神学者であるハインリッヒ・ティールシュは、「聖餐（式）におけるキリストの体と血の真且つ現実の存在」について書いていますが、これは完全にカトリック教会とルター派の教えの伝統に則ったものです。

教理要綱もこれを踏襲しています。「しかしパンとぶどう酒は単にキリストの体と血を喩えたり象徴したりするような存在ではない。実際にキリストの体と血そのものなのである（キリストの現存〔実在〕）」(8.2.12)。

変換するのか加わるのか？

「どのようにして」という点でも一致しています。つまり、カトリックの教義である「化体説」が明確に否定されているのです。多かれ少なかれ、ルター派の教義である「両体共存説」の傾向にあったことは明らかです。どちらの場合も、パンとぶどう酒の科学的構造が変わるわけではなく、ものとしての本質が変わるのです。

しかし1990年代の初めに、新使徒教会が発行していた「信仰問答書」の中で、突然「霊的現実」という言葉が出てきます。これは一般的に、改革派という臨在説と対立します。とはいえ、これは教義上の変化というよりも、単に語用の難しさを示す例に過ぎません。

余興か本番か？

ニーハウス主使徒とビショップ主使徒の時代、聖餐が全く別の側面から理解されました。それまでは罪の赦しが聖餐の準備でしかなかったのに、その関係が逆転したのです。聖餐は、赦しに与ったという言わば領収書のようなものとしか見なされず、赦し自体がほとんどサクラメントのような意味を持つようになったのです。

新使徒教会は、この理解から徐々に別れを告げています。1960年代末、教義諸書では「受け取り」という言葉が「確認」に置き換えられました。そして、1970年代の初めからこんにちに至るまで、聖餐が主たるものであり、罪が赦されることで聖餐にふさわしく与れる、と考えられるようになりました(教理要綱 8.2.14)。

理解の鍵は「聖餐の二重性」

新使徒教会による聖餐の理解において、犠牲的側面は、明らかにカトリックからプロテスタントへと移行しています。聖餐を執り行う中で、今もイエス・キリストの犠牲には触れているものの、信徒からの応答には言及されなくなりました。ビショップ主使徒の時代までは、パンとぶどう酒の要素を献げることも含まれていました。ドイツ語で「das Dargebrachte(奉

献されたもの)」という言葉で表現されていた、聖別の典礼文に残っていた、この概念の最後の痕跡は、2011年の典礼改革で消滅しました。

新使徒教会は、教理要綱の編纂と同時に、「二重性」に関するカトリック使徒教会の考え方を復活させただけでなく、その

考え方を大幅に拡大させました。この概念は、イエス・キリスト（教理要綱 3.4.3）の性質を理解するだけでなく、教会（教理要綱 6.3）、教職、聖餐（教理要綱 8.2.12）の性質を説明するための鍵となります。

（2021年7月20日 nac.today より）

sacrament (39) :

血は誰のために流されたのか

イエス様は誰のために命を献げられたのでしょうか。多くの人々のためか。すべての人のためか。この問題がきっかけとなって、聖餐を聖別する典礼文が若干改訂されました。若干とはいえ、意味のある改訂でした。今回はこのことについて考察します。



2011年の典礼改革に伴うこの文言の改訂は、目を凝らさなければわかりません。改訂された典礼文では「あなたがたのために」から、「多くの人 [...] のために」キリストの血が流された、となりました。

それぞれに根拠がある

これは、例えばコリントの信徒への手紙二に書かれているように、「一人のお方がすべての人のために死なれた」という福音の根本的真実とどう整合するのでしょうか。特に「多くの人々のために」という文言は、マルコとマタイによる各福音書にある最後の晩餐に関する記事に見られる、ギリシア語「ユーペルポーロン υπέρ πολλων」の直訳であり、厳然たる聖書の言葉です。「あなたがたのために」と並行する箇所に見られます。

オリゲネス^{*1}からトマス・アクィナス^{*2}に至るまで、教会の教父や教師たちは、この問題について頭を悩ませてきましたが、明確な結果は得られませんでした。とはいえ、何世紀にもわたって、カトリック、正教会、英国国教会の間では、聖別の際に「多くの人々のために」という言葉が採用されていました。プロテスタントだけは「あなたがたのために」を用いていました。

賛否

そのような折、カトリックの典礼を覆したのは、なんとプロテスタントの学者でした。国際的に有名な辞書に「πόροι ποροイ」という見出しで寄稿した彼の言葉は、1968年に第二バチカン公会議^{*3}が現地語訳を発表するほどのインパクトがありました。それ以来、カトリックの典礼文は多くの場所で「すべての人のために」となっています。

それから約40年後の2006年から、バチカンは「多くの人々のために」に戻そうとしました。それ以来、学者たちの間で議論が始まりました。「ユーペルポーロン」のラテン語訳から名付けられた「pro multis プロ・マルチス」論争です。ちょうどこの頃、新使徒教会の典礼文は「あなたがたのために」から「多くの人々のために」へと改訂されました。

*編集者注（出典はすべてウィキペディアより）

1. オリゲネス (Origenes Adamantius, 185年頃 - 254年頃) …古代キリスト教最大の神学者。
 2. トマス・アクィナス (Thomas Aquinas, 1225年頃 - 1274年3月7日) …中世ヨーロッパ、イタリアの神学者、哲学者。
 3. 第2バチカン公会議 (Concilium Vaticanum Secundum, 1962年 - 1965年) …ローマ教皇ヨハネ23世のもとで開かれ、後を継いだパウロ6世によって遂行されたカトリック教会の公会議。

誰のための宣言か

これまでに明らかになっていることは、先述した辞書の記事の論拠は、完全には反論されないまでも、大きく損なわれているということです。なぜなら、著者はアラム語^{*4}への仮説的な逆翻訳に頼っていたからです。この方法は、こんにちの学者にとって、あまりにも憶測に過ぎません。

少なくとも学者たちの中で一致していることがあります。それは、典礼が「あなたがたのために」と言おうが、「多くの人のために」と言おうが、「すべての人のために」と言おうが、これは聖書や言語の問題ではなく、典礼執行に関する神学的な問題である、ということです。「誰を聖餐に招くか。また、

どの背景で典礼文を述べるのか」という問題です。

新使徒教会教理要綱には次のように書いてあります。「イエスはすべての人のためにおいでになったが、すべての人がイエスを受け入れているわけではない」(12.4)。さらに、「罪が赦され霊の死から救出されるためには、イエス・キリストが贖い主であることを信じるのが、罪人たちにとって前提となる第一の条件である」と書いてあります(12.1.8.4)。そして何よりも大事なことは、「聖餐にふさわしい姿勢で与る基本要件は、救いへの渴望に溢れた、信心と悔い改めの気持ちを持っていること」です(8.2.18)。

(2021年8月3日 nac.today より)

サクラメント (40) :

全部で 20 通りの聖餐メニュー

全 20 コースのメニューです。これまで nac.today が取り上げてきた、聖餐についての歴史と神学についての議論を簡単におさらいします。



主の晩餐、聖餐式、聖体拝領——これらが聖餐についてよく使われている表現です。しかし、イエス・キリストは、このサクラメントを制定された時に、明確な言葉を残されませんでした。最後の晩餐の正確な日付についても、当初より一致していません。また、聖書には、聖餐をどのように行うべきかが明記されていません。しかし、新約聖書では、聖餐に様々な意味を持たせています。

実際に執り行われるようになると

家族での夕食を離れ、教会の礼拝に向かう：古代における聖餐の発展は、どちらかという現実で考慮したものとりました。神学的に発展するようになったのは、中世への移行期に、イエス・キリストの「実在」を新しい考え方で説明しなければならなくなってからです。宗教改革は、新しい論争と新しい説明パターンをもたらしました。

また、各教派は、その実践において、特に主の晩餐の要素においても多岐にわたるようになります。パンの種類は何にすべきか？ どのぶどう酒にすべきか？ 聖餐杯なしではダメなのか？ そして、パンとぶどう酒の両方をどのような形で摂取すべきか？

典礼においても、各教派はそれぞれの独自の道を歩んでいます。会衆がパンとぶどう酒に与るために、いつ、どこで、ど

*編集者注 (出典はウィキペディアより)

4. アラム語…かつてシリア地方、メソポタミアで遅くとも紀元前 1000 年ごろから紀元 600 年頃までには話されており、かつ現在もレバノンなどで話されているアフロ・アジア語族セム語派の言語で、系統的にはフェニキア語やヘブライ語、ウガリト語、モアブ語などと同じ北西セム語に属す言語。アラマイ語とも。

のようにして集まるのかについても、教派によって様々です。

相互扶助

誰が聖餐式を行うことができるのか？この質問に対して、各教派とも、実際の理由は違えど、よく似た答えを出しています。しかし、どの教派も聖餐を受けることに条件をつけています。これによって、主の食卓で誰がどこに座ることを許されるのかという問題が発生します。

各教派が設けた条件によって生じる垣根は、聖餐を一緒に執

り行うことを難しくします。共通項を見つけようとする試みは何度も行われてきた。しかし、教会の柵を越えることはまだ困難です。いずれにしても聖餐には、 sacrament としての意味以上に、交わりの食事、記念の食事、告白の食事、未来への希望の食事といった、様々な側面があります。

新使徒教会の歴史の中で、聖餐も大小さまざまな発展を遂げてきました。これは、聖別のための典礼文から、聖餐を礼拝の中心とするこんにちの位置づけにまで及びます。

(2021年8月16日 nac.today より)

弱い人こそ強い働きをするのである！

「数字ばかり見てはいけない」とジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒は忠告しています。現代人に当たり前のことは、福音を広めるのに適していないのです。神様は教会を不完全である人間を通して完成なさいます。



2021年10月24日、ドイツのハイルブロンで、全世界にある新使徒教会の長であるジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒は、ヨーロッパで活動するすべての使徒が臨席する中で、教役者夫妻のための礼拝を司式しました。聖句はコリントの信徒への手紙二12章9節を引用しました。「ところが主は、『私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ』と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」

「神様の力は弱さの中で完全となる」というのがこの福音の言葉の趣旨です。イエス様がおられた時からそうでした。最初は、活動も順調でした。奇跡をたくさんなさって、それに人々

は魅了され、多くの人がイエス様について行きました。ところがすぐに状況が一転しました。イエス様は受け入れられなくなり、見捨てられ、逮捕され、殺されました。強くて影響力のあるお方から、弱いお方になられたのです。しかしこの弱さの中にこそ、神様の力が現れたのです。主は死を克服され、蘇られました。キリスト教の信仰が伝えているのは、まさにこのことなのです！

弱くもあり、強くもあつたパウロ

シュナイダー主使徒は、パウロのことを取り上げました。彼は信仰面において、言わばチャンピオンでした。とはいえ、不完全さにも対峙しなければなりません。彼が話している時に、皆が立ち止まってその話を聞いていたわけではありませんでした。パウロはさして雄弁というわけでもなく、病気持ちで、弱々しく、いつも悩みを抱えていました。そんな彼は、牢屋に入れられ、事故に遭い、船で難破し、公の場で拷問を受けました。しかも当時は、教会内の分裂や不祥事も起きていました。自分のやっていたことがそれほどうまくいっていたわけではなく、各地で問題の対処に当たっていたというのが実情でした。しかしこの弱さは、目に見える部分だけでした。神様はパウロの働きを、今の私たちにも糧になるような形で、祝福されました。

弱くもあり、強くもある教会

「力は弱さの中で完全に現れるのだ。——これは教会にも言えることです」と主使徒は言いました。教会も、始まりは小さく、達成できたことがいくつかあった一方で、分裂したこともありました。しかし再出発し、上昇気流に乗り始め、黄金期を迎え、成長に成長を重ねました。「毎年、記録的な数の人々が御霊の証印を受けています。こんにちのヨーロッパとは少し印象が違うのです。そしてシュナイダー主使徒は次のように言いました。「兄弟姉妹の皆さん、神様にとっての成功や効果を、人間的な基準で判断することはできません。前提としてこのことを申し上げておきます。」イエス様は御父を信頼しておられました。パウロは最後まで自分の使命と福音を信じていました。私たちも同じです。イエス・キリストのご臨在を信じなくてはなりません！聖霊がその力と全能性を持って働いておられることを信じなくてはなりません。このようなことは、人間的な基準で判断することはできないのです。

強さのための弱さ

「パウロはさらに、別の側面から成長しています」と主使徒は言いました。人間が弱いのは当たり前です。人間とはそういうものです。弱いから、自分ではなく神様を信じるのです。大切なのは、例えば「自分は小さくてできないから、誰からすべきだ」といった「偽りの謙虚さ」を装ってはならない、ということです。この場合、神様に全幅の信頼を置けばよいのです。神様が皆さんをお召しになる場合、皆さんに何ができるのかということ、神様は正確に把握しておられるのです。神様の力を信じてください！神様は、不完全である人間を用いて、完全な働きをしてくださるのです。

私たちは自らの弱さの中で、神様の力に頼っている——パウロはこうも教えています。このことを、こんにちの世の中や私たちの考え方に当てはめるわけではありません。現代人は、すべてを理解したが、すべてを思い通りにしようとしがちです。「適切な方法、適切な時期でやれば、必ずうまくいく！そうしないなら、やってはいけない」という考え方です。しかしこの原理原則が信仰的には通用しないのです。

神の邪魔をしてはいけない

パウロは書簡の中で「神様の働きを妨げてはいけない」と言っています。彼は異邦人への宣教で目覚ましい成功を収めました。キリスト教の歴史を振り返ってみると、その時々で、イエス・キリストよりも奉仕者や教会のほうが重要になってきました。このことに気づかねばなりません。教会の制度や利

益を守らんがために、福音の基礎は、その一部は忘れられてしまいました。新使徒教会の歴史においても、福音が忘れられ「悪しき反対者」と戦うために攻撃的な行動がとられたこともありました。しかし常に最優先すべきは、福音なのです！

信仰の活用は慎重に

「信仰を慎重に活用しましょう。」主使徒は最後にこう呼びかけました。今では、信仰はいわば絶滅危惧種になってしまいました！現代人が信仰を持つのは難しいです。難しいのが当然になってしまったのです。神様を信じている人のほうが珍しいという現状です。ですから信仰がそれだけ希薄になっているからこそ、慎重に活用しなければいけません。救いのためには信仰に訴えるしかありません。人間と神様との関係には、信仰が必要です。信仰がなければ、救いは有り得ません。しかし、教会の組織や機構の問題、考え方や伝統や規則について、信仰は必要ありません。これらにおいて必要なのは常識、知識、専門性、そして何よりも隣人愛です！神様への信仰、福音への信仰、イエス・キリストの教えへの信仰は必要です。神様との関係を築くためには、信仰が必要です。それ以外のことでは、むやみに信仰に訴えるべきではありません。

恵みが我々を豊かにする

最後にシュナイダー主使徒は次のように述べました。「『私の恵みはあなたに十分である』という言葉は否定的に捉えるかもしれませんが。しかしこれは『神様を信じていることがなんと豊かであるか』ということをお話しているだけなのです。」「少ない恵みで満足しなさい」ということではなく、豊かさを表しているのです。「私の恵みはあなたに十分である」とは、なだめる言葉ではなく、「どれだけ豊かなのかを自覚しなさい」と諭す言葉なのです。

(2021年11月10日 nac.today より)

「コミュニティ」ご愛読者の皆様

謹んで新年のご挨拶申し上げます。昨年はコロナ禍も含め様々な厳しい試練を通されましたが、「キリスト、我らの未来」という標語のもとで、キリストが私たちの未来であることを学ばせていただきました。今年は主使徒より、

「キリストにあって共に」

という標語をいただきました。私たちキリスト者はこの標語の意味を主使徒や使徒たちから学ぶことで、来るべき大なる日に備えたいと思います。

キリストによる平和が皆様の上にありますように。

編集担当 松岡利恭

困難に対処するための支援

コロナ禍は、いまだに世界を震撼させています。また、コロナ禍以外の分野でも緊急の支援が必要とされています。世界中の姉妹や兄弟たちは、自分たちにできることをしています。

ガーナでは井戸、シエラレオネでは除菌剤、西太平洋教区ではビデオメッセージによる心のケアなど、世界中の人々が隣人への愛を実践的な行動に移し、必要な場所で支援するために最大限の努力をしています。

新しい井戸の掘削

9月12日、ガーナのアファム／タノソで、アモス・オセイ＝ドウ使徒が新しい井戸を引き渡しました。この地域では安全な水を手に入れることが困難でした。南ドイツ新使徒教会の支援団体と協力して、地元の教会に機械式の井戸を建設することができました。完成式で使徒は、村人たちに施設を大切にするように促し、教会員たちには神様への愛をあきらめず、このような形での貢献を続けるよう勧めました。また、教会としてそのための支援の継続を約束しました。

教育支援

ザンビア新使徒教会は、弱い立場にある地域の環境改善を約束しています。カタバジは、ザンビアの南部州にある孤立した遠隔地の地域です。つい最近、教会の人道支援組織である新使徒支援協会（NACRO）がザンビア政府と協力し、ドイツのNAK karitativからの資金で学校を建設しました。クブバ・ソコ教区使徒は、10月中旬に行われた式典で学校の落成式を行いました。主賓のコルネリウス・ムウィートワ南部州知事は、政府の努力を補ってくれた教会に感謝すると共に、「ザンビア共和国政府は、すべての人に無料で質の高い教育を提供するために、関係者とのパートナーシップを成功させることに、今後も尽力していく」と述べました。

新型コロナウイルス対策のための衛生用品

シエラレオネのフリータウンにある教会の事務局では、石鹼や衛生剤が入った大きな荷物の受け取り準備をしていました。シエラレオネ政府が集会禁止を解除した時、フリータウンの

事務局のスタッフは行動を起こしました。教会で安全に礼拝を再開できるように、石鹼や手指消毒剤を入れる容器、除菌剤などを購入したのです。アルバート・ガーバー、サンファ・セサイ、タイム・カルグボ、ブライマ・サッフアの各使徒が集荷を担当し、すぐにめいめいが担当する小教区の信徒たちに配りました。

話すことが役に立つ

コロナ禍は、私たちに身体的な危機をもたらしただけでなく、人々の精神的な健康にも影響を与えています。このことは、西太平洋地区の兄弟姉妹も感じていました。教会員の多くは、ロックダウンされた状態での生活を続けており、家庭、学校、職場の環境で不安を感じている人もいます。「Staying Connected」ワーキンググループは、特に影響を受けている人々に手を差し伸べ、一人ではないことを知ってもらうために、一連のメッセージをまとめました。登録心理士と協力して、会衆やコミュニティのさまざまなグループに向けたビデオメッセージを作成しました。メッセージは、親や社会人、青少年、高齢者に向けたものです。ビデオの中では、友人や家族、牧師や専門家など、誰かに相談することを勧めています。ビデオの最後には、どこに相談していいかわからない人のために、電話番号が表示されています。

教会の応急手当要員

救急隊員の数を確保するために、ドイツのエムデン教会地区では救急隊員の養成を始めました。救急隊員としての訓練を受けたいと希望し、集会で救急隊員として活動する準備ができていたすべての教会員は、10月16日の学習会に招待されました。ドイツ赤十字社のような認定された援助団体が、基本的な応急処置の知識を提供し、すでにこの分野での経験がある人たちを訓練しました。

(2021年11月4日 nac.today より)

コミュニティ

2022(令和4)年第1号・日本新使徒教会発行

日本小教区主任牧師：門平 彰弘 (E-mail: kadohira.nac@icloud.com)

多摩教会 〒206-0014 東京都多摩市乞田 1320

Tel. 042-374-0070 (日本小教区本部)

松山教会 〒799-2468 愛媛県松山市小川甲 110 番地 17

Tel. & Fax. 089-994-3556

新使徒教会国際本部: <https://nak.org/>

新使徒教会西太平洋教区: <https://nacwesternpacific.org/>

新使徒教会日本小教区: <http://nac-japan.org/>

監修: 高島 健郎 / 編集担当: 松岡 利恭